

事務事業マネジメントシート(平成23年度実績と平成24年度計画)

平成24年 9月26日更新

事務事業名	認知症予防プログラム事業(脳いきいき教室)				<input checked="" type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり		所属部	健康福祉部	課長名 可徳精至
体系	施策	16	高齢者の自立と社会参加の促進		所属課	高齢者支援課	担当者名 坂井晴代
	基本事業	49	高齢者の介護予防の充実		所属班	包括支援センター班	(内線) 2151
予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	介護保険法第115条の45
	介護	11	1	2	11267		成果優先度評価結果 : ⑤ コスト削減優先度評価結果 : -
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 23年度で終了 <input type="checkbox"/> 23年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)	

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	認知機能向上を必要とする高齢者に対し、くもん式学習法による脳の健康教室(毎日の生活の中で読み書き、計算を習慣化させる)を実施することにより認知症を予防し、脳の健康を維持する。加齢とともに認知症高齢者は増加する(85歳以上では4人に1人の割合で認知症がある)という統計資料があり、元気なうちから、認知機能向上を始める必要があることから実施している。認知症ではないが心配している人、認知症の可能性も考えられるが介護保険のサービス利用が難しい人の受け皿となっている。 23年度から、プログラムの継続利用に向けての「地域版 脳いきいき教室」を須屋市民センターで開始し(月に2回)実施し、24年度からはふれあい館での拠点開催をはじめ、新たにヴィーブルなどでの地域版開催を充実していく。
【業務の流れ】	平成23年度は週1回5ヶ月の2クールで実施していたが(ふれあい館、みどり館)、平成24年度からは学習サポーターを確保し、週1回6ヶ月の教室をふれあい館で開催するほか、須屋市民センター、ヴィーブルなどにおいて認知症予防プログラムを実施する。
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	平成23年度は5ヶ月を1クールとして実施していたが、途中で教室への参加希望する人が多かった。また、継続して参加を希望する人が多いため、受け皿がほしいという意見があった。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標	新規・拡充区分:
①手段(主な活動)23年度実績(23年度に行った主な活動)(DO) 二次予防対象者(特定高齢者)として区別せず、教室参加を希望される高齢者を対象として脳の健康を維持するよう支援を行った。	24年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 教室参加を希望される高齢者を対象として脳の健康を維持できるよう支援を行う。週1回の教室を6ヶ月間を1クールとして行う。また、地域の施設等においても認知機能向上の教室を行う。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標) ア:脳の健康維持を希望する高齢者 イ:脳の健康教室開催回数	(単位) 人 回 予算の主な増減の理由 地域版の教室拡大に伴う委託料の増
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 教室への参加を希望する高齢者	(単位) 人 ア:参加希望する高齢者 イ:
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 脳の健康教室を実施し、認知機能の向上を図る。	(単位) 人 ア:基本チェックリストの結果生活機能が維持改善した高齢者数 イ:
*③成果指標設定の理由と24年度目標値設定の根拠 脳の健康教室を開催することで、認知症予防に繋がるため。	
総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0	

(2)各指標・総事業費の推移		単位	21年度 実績(決算)	22年度 実績(決算)	23年度 目標(当初予算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	25年度 予定	26年度 見込	27年度 見込
①活動指標	ア 人		16	34	40	48	50	50	50	50
	イ 回		24	40	40	50	50	50	50	50
②対象指標	ア 人		16	34	40	50	50	50	50	50
	イ									
③成果指標	ア 人		11	13	28	35	40	40	40	40
	イ									
投資 入 費 量	国庫支出金	千円	153	460	615	610	853	853	853	853
	都道府県支出金	千円	76	230	306	305	427	427	427	427
	地方債	千円								
	その他	千円	305	920	1,230	1,200	1,709	1,709	1,709	1,709
	繰入金	千円								
	一般財源	千円	76	230	290	326	422	422	422	422
(A)事業費計	千円	610	1,840	2,441	2,441	3,411	3,411	3,411	3,411	
(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
正職員従事人数	人		2	5	3	5	3	3	3	3
延べ業務時間	時間		80	230	100	330	100	100	100	100
(B)人件費計	千円		318	947	412	1,332	412	412	412	412
トータルコスト(A)+(B)	千円		928	2,787	2,853	3,773	3,823	3,823	3,823	3,823

事務事業名	認知症予防プログラム事業（脳いきいき教室）	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	-----------------------	-----	-------	-----	--------

## 2 評価の部（SEE）

\*原則は23年度の後評価、ただし複数年度事業は23年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①23年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した 認知症予防のための教室実施とサポーターの養成が図れた。	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】
	②24年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 通知等による認知度向上、送迎が確保されることにより多くの利用者が見込まれるため。	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 参加者が増えているが、希望者が多いため継続参加を希望する人の枠がない状況である。また、開催場所までの公共交通機関がないため拠点送迎を実施している。24年度からは新規参加者が参加しやすいように地域の公民館等で実施する予定である。	<input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある⇒【理由】（具体的な手段、事務事業） <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業はない。	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 教材費は個人負担のため削減の余地はない。また運営に係る費用も最低限で実施している。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託できないか？（アウトソーシングなど）	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限度の人数により実施している。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 参加者には教材代、保険料等を負担していただいており公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 事業所に委託しており、適正である。

## 3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

高齢者の認知機能維持、向上に貢献しており、利用者の満足度は高い。但し有意の数値的データを収集するのは困難である。

## 4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善（有効性改善） <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善（効率性改善） <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善（公平性改善） <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下		
				コスト																	
		削減	維持	増加																	
成果	向上																				
	維持		○																		
	低下																				
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																					